

I 発生直後に行うこと

1. 発生直後に看護師が行うこと

石巻赤十字病院救命救急センター看護師長・救急看護認定看護師 しぶや たかこ 澁谷多佳子

準備

災害対応には準備が重要となる。災害対策マニュアルには病院としての災害対応の基本方針を明示し、担当責任者名の記載や物品調達場所の明記など、職員が災害発生時にどう行動すればよいのかをあらかじめ具体的に示しておく。また、業務役割別アクションカードがあると、より適切な活動につながる。

安全確保

まず、自分の身の安全を確保することを第一とする。自身の安全を確保しなければ、救える命も救えない。

安全確認

入院患者や外来患者および見舞い客の安否確認と安全確保を行う。重傷者から巡回し、確認していくが、特に入院患者には患者一人一人に声を掛けて落ち着かせていく。

巡回しながら全体状況を把握する。患者の負傷の有無と程度、医療機器の作動状況と建物の損壊状況、二次被害の危険（漏水、ガス漏れ、壁・ガラスの破損など）、避難経路は確保されているかなど、設備の点検に努める。

情報収集と報告

巡回によって得られた被災情報から、支援が必要な状態か判断する。そして、被災状況

報告書（図1）に必要項目を記載し、院内の災害対策本部に報告する。災害対策本部は各部署から集まった情報をもとに、自施設の被災状況や患者・職員の安否情報を把握する。

また、テレビやラジオをはじめ、消防や警察などへの連絡など、さまざまな手段で情報を集め、災害全体の被害状況を把握する。そして、多くの傷病者の来院が想定されるときは、緊急事態であることを宣言し（災害レベル）、外来や救急を訪れる傷病者に対応できるよう準備する¹⁾。

二次災害の予防

割れたガラスなど、危険物の除去を行い、二次災害を予防する。

職員の確保

災害により多数の傷病者が発生すると、そのときから災害医療活動が求められる。しかし、医療機関の職員は地元に住んでいる人が多く、医療施設が地震などで被災したような場合は、多くの職員もまた自宅や家族に大きな被害を受けていると想定しなければならぬ。そのため、連絡手段がない場合を想定し、災害発生時の自主出勤基準を決め、災害マニュアルに「震度〇以上のときは、自主出勤する」と記載しておく²⁾。

被災状況報告書（救急）【第 報】

平成 年 月 日
時 分

救命救急センター

報告者 _____

第1報 ★★★発生後直ちに災害対策本部に提出すること

建物の倒壊	無・有 ()	
火 災	無・有 ()	
中央酸素配管からの酸素の噴出	無・有 ()	
緊急を要する人的被害	患 者	無・有 ()
	職 員	無・有 ()
その他緊急報告事項		

第2報 ★★30分以内に提出 →第2報の状況が変化した場合順次報告

	患者数		機 器		建 物				
	担 送	点滴・処置中	酸 素	吸 引	水 道	ド ア	壁	ガラス	火 災
病 棟									
初療室									
内視鏡室									
気管支鏡室									
心臓カテーテル室									
IVR 室									
CT 室									
その他緊急報告事項									

図1 被災状況報告書

マニュアルに記載されていても何らかの理由で出勤できないときは、あらゆる手段を駆使して、早期に施設へ連絡する。当院では、東日本大震災で交通手段がなく出勤できなかった看護師もいたが、自主的に近隣の避難所

で救護活動を行っていた。発災直後の公助が得られない状況で、持てる知識と技術、ケアの心を最大限駆使しての活動は、地域の方々にとってどれほど心強いものであったのだろうか。

これだけは覚えておこう！

- ・災害に備えた日ごろの準備が大切である。マニュアルには担当責任者名や物品調達場所など、できるだけ具体的に明記する。
- ・発災直後は自分の身の安全を第一に確保する。
- ・自主出勤基準が決められていても、出勤できない場合は、あらゆる手段を駆使して早期に施設へ連絡する。